

平成30年度 「豊かな心の育成」推進プラン

中期学校経営方針・「豊かな心」達成目標

道徳の時間はもとより、全教育活動を通して、よりよい人間関係を築いていこうとする子どもの姿を価値付け、自尊感情の向上を図る。

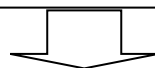
児童の実態

自然豊かな環境にあり、地域の協力を得られる。子どもたちは、素直で人との関わりを好む反面、社会規範意識が低く、自己本位の言動が見られることがある。また、自分の思いをわかりやすく相手に伝えることが苦手なために、言葉でのコミュニケーションがうまくいかず、トラブルになってしまう場面もある。



「豊かな心の育成」に関する指導の目標・方針

- ・ 幼保小や縦割り班活動等の異学年交流をさらに充実させ、「相手」を意識したり、自分から進んで関わったりすることで、一人ひとりの自尊心を高めていく。
- ・ 道徳の授業を年1回公開し、子どもたちの実態に合った道徳の授業作りに取り組む。
- ・ 道徳のカリキュラム内容を実践しながら、よりよいものへ改訂していく。



指針1：体験活動の充実

☆5・6年生がリーダーとなって、縦割り活動を行い、高学年のリーダーとしての意識やグループ内で互いを思いやる心や協力しようとする気持ちを育てる。【視点2】

- ・ 年間計画を作成し、年間の見通しをもって活動する。
- ・ 仲よしリーダー委員会で、5・6年生のリーダーが、みんなが楽しめる遊びの内容を考え、話し合うことで、自主性や主体性を育て、仲よし班活動が円滑に進められるようにする。
- ・ 1～4年生は異学年の交流を深めていく。
- ・ 毎時間のねらいを明確にし、職員間での共通理解を図る。

☆幼稚園、保育園との継続した交流を行う。【視点3】

- ・ 園児との継続交流や、赤ちゃんの抱っこ体験などを通して、相手を思う気持ちを育てたり、満足感や達成感を味わったりすることで、意欲的に活動に取り組めるようにする。

指針2：「道徳の時間」の充実

☆道徳教育の要となる道徳の時間の指導を通して、子どもが道徳的見方・考え方・感じ方を多様に広げ、自己を深く見つめ、よりよく生きようとする道徳的実践力を身に付けられるようにする。【視点1】

- ・ 学校教育全体を通じて行う道徳教育と各学級の道徳の時間との関連を図り、豊かな体験を生かして指導を行う。
- ・ 年1回道徳の授業を公開し、家庭・地域と連携して、豊かな心を育成していく。